

記者発表（資料配布）				
月／日 （曜日）	事務所名等	電話	発表者 （担当者）	配布先
10/30 （金）	県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター	0796- 36-0395	所長 山中健志郎 （研究員 田村一樹）	但馬県民局・ 県政記者クラブ

令和2（2020）年漁期ズワイガニ漁況の見通しについて

但馬水産技術センターでは、11月6日から解禁となる日本海のズワイガニ漁を前に、県漁業調査船「たじま」により漁期前調査を実施しました。

当該調査やその他の情報に基づいて検討した結果、令和2（2020）年漁期におけるズワイガニ漁況の見通しは下記のとおりです。

記

1 解禁直後（但馬沖漁場）

- ・解禁直後の但馬沖漁場での漁獲量（1隻当たり）は、オスがに（かたがに）、メスがに（クロコ）ともに前年並みか前年をやや上回るでしょう。
- ・メスがにの漁場は水深235～240mが中心となるでしょう。

2 漁期全般（浜田沖～丹後沖漁場）

- ・本県底びき網漁船が漁期を通じて利用する浜田沖～丹後沖漁場全体におけるズワイガニ漁獲量は、オスがに、メスがにともに前年並みでしょう。

根拠となった情報については別添資料（但馬水産技術センターだより）を参照してください。

問い合わせ先

兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
研究員 田村一樹
電話 0796-36-0395



但馬水産技術センターだより



漁況情報（G2021号）

令和2年10月30日
兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター 発行

令和2（2020）年漁期ズワイガニ漁況の見通しについて

調査船「たじま」の調査結果などから見た今期のズワイガニ漁況の見通しについて報告します。

1. 今漁期の見通し

解禁直後（但馬沖漁場）

解禁直後の但馬沖漁場での漁獲量（1隻当たり）は、オスガニ（かたがに）、メスガニ（クロコ）ともに前年並みか前年をやや上回るでしょう。メスガニの漁場は水深235～240mが中心となるでしょう。

漁期全般（浜田沖～丹後沖漁場）

本県底びき漁船が漁期を通じて利用する浜田沖～丹後沖漁場全体におけるズワイガニ漁獲量は、オスガニ、メスガニともに前年並みでしょう。

2. 根拠となった情報

解禁直後（但馬沖漁場）

調査船「たじま」によるズワイガニ漁期前調査（調査月：10月）

調査船「たじま」により、2020年10月6～14日に香住沖の水深200～350mおよび津居山沖、浜坂沖の水深235～245mに設けた計13定点（図1）においてトロール網（袖先間隔27m、3ノット、30分曳き）による試験操業を実施しました。

オスガニは、浜坂沖の水深235～240mにおいてまとまった入網があったため、メスガニ漁場水深帯、全水深帯における1曳網当たり入網数は、前年および過去5年平均を上回る結果となりました（表1、表2）。ただし、津居山沖、香住沖においては前年並みあるいは前年をわずかに下回る結果となっています。

メスガニも、浜坂沖の同水深帯においてまとまった入網があり、メスガニ漁場水深帯、全水深帯において1曳網当たり入網数が前年を上回る結果となりましたが、過去5年平均は下回る結果となっています（表1、表2）。ただし、香住沖においては前年をやや下回り、津居山沖においては前年を大きく下回る結果となりました。

なお、本年度調査で入網したズワイガニの甲幅組成は図2のとおりです。

漁期全般（浜田沖～丹後沖漁場）

水産研究・教育機構 水産資源研究センター底魚資源部調査（調査月：5～6月）

水産研究・教育機構 水産資源研究センター底魚資源部は、A海域（富山県以西）における2020年漁期当初の資源量をオスガニ、メスガニともに前年並みと推定しています。なお、ミズガニについては前年を下回ると推定しています（図3）。

3. その他の情報

- 本年度調査ではメスがに漁場水深帯とも重複する 225～275m の広い範囲の水深帯においてアカコが多く入網しました（通常、アカコは但馬沖において 225～235m に分布）。11 月は再放流後の生残率が低いとされています（山崎ら 2011、2013）。アカコが多く混獲される海域で操業する場合、少しでも生き残りを増やすためにも迅速な再放流に努めてください。
- ミズがに、若齡がにも同様に 11 月における再放流後の生残率が低いため、それらが多く混獲される海域での操業は控えてください（本年度調査では脱皮前後の個体が香住沖 200～225m で多く入網しています）。
- 但馬沖のアカガレイの 1 曳網当たり入網重量はメスがに水深帯、全水深帯ともに前年、過去 5 年平均を下回りました（表 2）。
- 本年度調査では大型クラゲの入網量が 2010 年以降で最高となっており、今後の推移に注意する必要があります。（表 2）。オオサルパの入網はごくわずかでした。

以上、操業の参考にしてください。

お問い合わせ先：兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター（担当：田村・大谷）

TEL：0796-36-0395 FAX：0796-36-3684

E-mail：nourinc_tajima@pref.hyogo.lg.jp

HP：<http://hyogo-suigi.jp/tajima/>

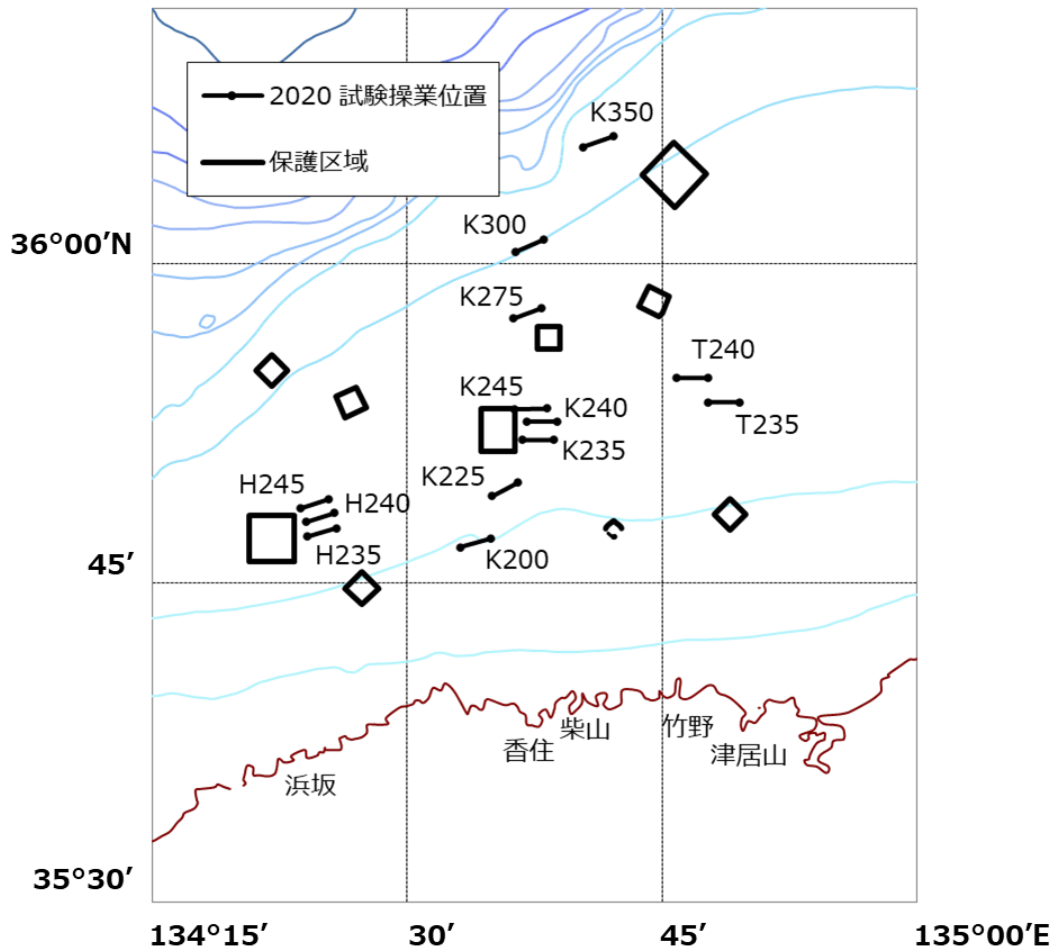


図1 但馬沖調査海域図

表1 漁場別のズワイガニ等入網状況

漁場	年月日	操業地点	曳網水深 (m)	ズワイガニ 入網数 (匹/網)			アカガレイ 入網重量 (kg/網)	大型クラゲ 入網重量 (kg/網)
				オス* ¹	ミズ* ²	メス* ³		
津居山・ 竹野沖	2020/10/14	T240	240 → 241	0	3	9	0.3	6.2
	"	T235	235	3	8	12	0.0	183.6
香住沖	2020/10/13	K350	345	1	1	0	0.0	0.0
	"	K300	300	2	2	0	5.0	133.0
	"	K275	275 → 278	2	6	0	20.6	65.0
	2020/10/12	K245	246 → 251	6	9	0	0.6	120.0
	"	K240	240 → 245	0	1	2	0.2	162.8
	"	K235	232 → 240	1	4	9	2.5	97.2
"	K225	224 → 222	4	30	0	17.5	97.8	
"	2020/10/13	K200	198	0	65	0	0.4	60.0
浜坂沖	2020/10/12	H245	245 → 246	5	3	1	3.6	140.0
	2020/10/6	H240	240	15	1	106	24.2	66.0
	"	H235	235	25	6	78	14.1	124.5

* 1 : かたがに (甲幅 94mm 以上、硬甲、ハサミ大)

* 2 : 11 齢 (甲幅 72~93.9mm) でハサミ小かつ脱皮前の個体

および 12 齢以上 (甲幅 94mm 以上) でかたがに以外の個体

* 3 : 漁期中にクロコになる個体

表2 水深帯別 1 曳網当たり入網数と前年および過去 5 年平均との比較

水深帯	調査年	ズワイガニ 入網数 (匹/網)			アカガレイ 入網重量 (kg/網)	大型クラゲ 入網重量 (kg/網)	平均 海底水温 (℃) *4
		オス*1	ミス*2	メス*3			
メスかに漁場水深帯*5 (235~250m平均)	過去5年平均	3.6	1.3	40.7	6.4	11.3	2.0
	2019年*6	4.6	2.7	18.4	10.0	0.0	1.8
	2020年	6.9	4.4	27.1	5.7	112.5	2.5
全水深帯 (200~350m平均)	過去5年平均	2.4	18.9	6.9	16.8	5.1	1.8
	2019年*6	1.6	5.8	3.2	9.8	0.0	1.5
	2020年	2.6	18.0	4.5	8.2	78.1	2.4

* 1 : かがたがに (甲幅 94mm 以上、硬甲、ハサミ大)

* 2 : 11 齢 (甲幅 72~93.9mm) でハサミ小かつ脱皮前の個体

および 12 齢以上 (甲幅 94mm 以上) でかがたがに以外の個体

* 3 : 漁期中にクロコになる個体

* 4 : 魚網監視装置に記録されたデータを参照した

* 5 : メスが集中分布する水深帯で解禁直後の主漁場となる

* 6 : 過年度を含めて集計方法の一部の見直しを行ったため、昨年度の公表値から修正あり

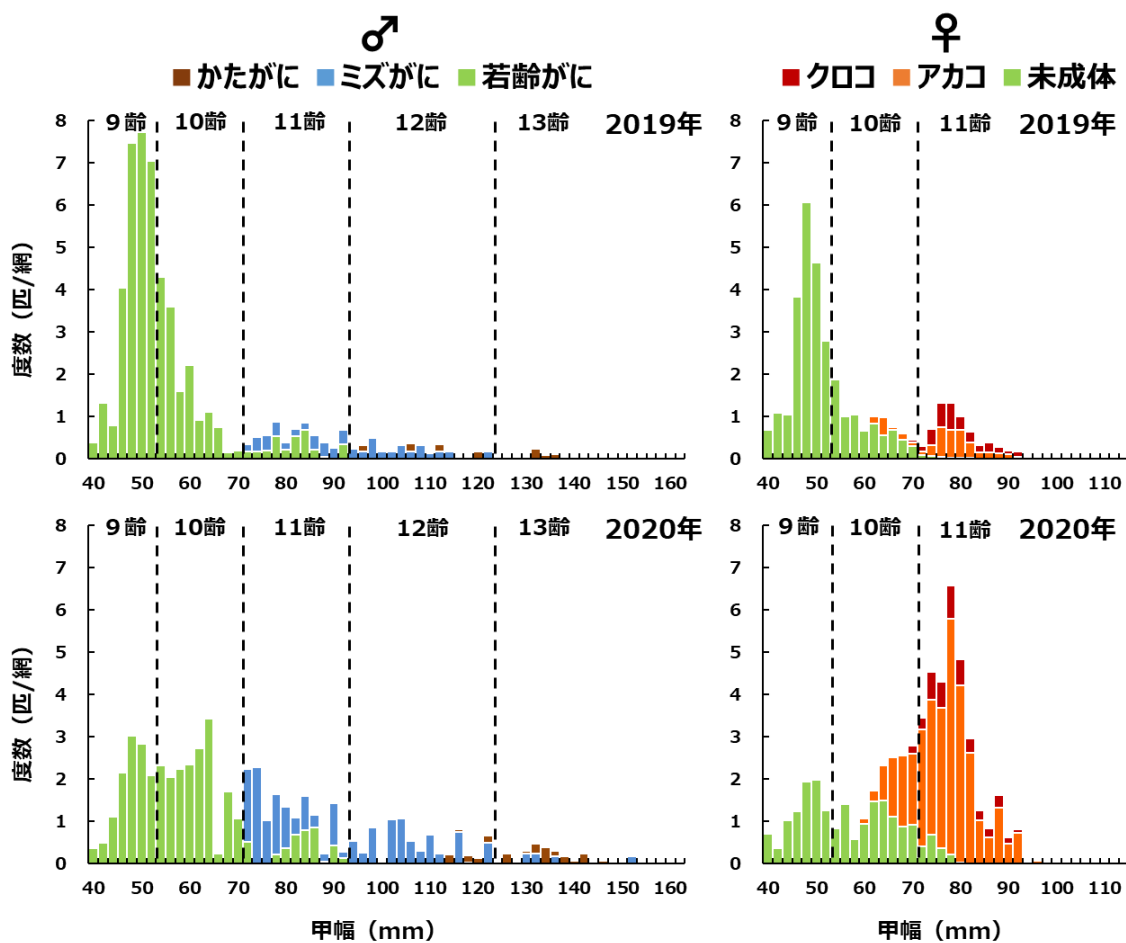


図2 2019~20年のズワイガニ漁期前調査で入網したズワイガニの甲幅組成

(10月、但馬沖全水深帯、1 曳網当たり)

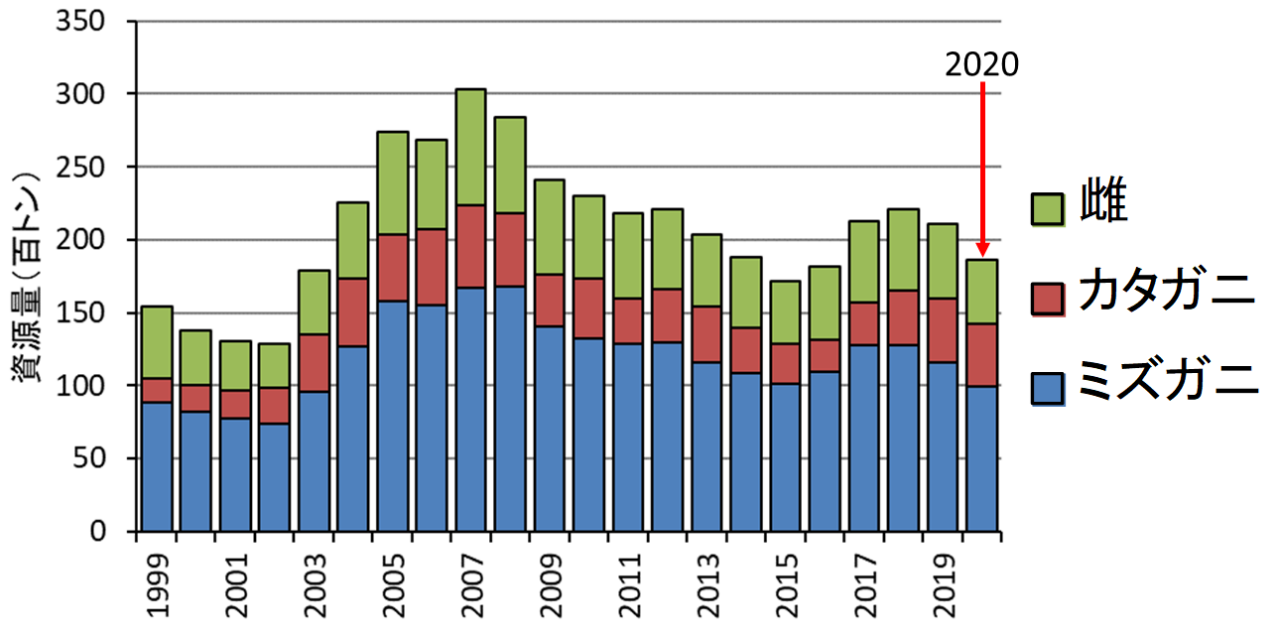


図3 日本海 A 海域（富山県以西）における推定漁獲対象資源量

(水産研究・教育機構 水産資源研究センター底魚資源部 作成資料より)